第3章 4. 災害から命を守る情報収集

災害時に自分の命を守るためには，どのように災害に関する情報を入手し，行動すればよいのでしょうか。

考えてみよう 日頃の災害への備え

日頃から災害が発生した場合の避難に関する情報がどのようなものかを知り，また実際に災害が起こった場合に備えた対策をとっておくことが大切です。どのような情報が必要かを考えてみましょう。

ハザードマップで災害発生の危険性を知る

過去の災害や地理的状況などから災害が起こった場合の被害状況などを知らせている。

（提供：名取市）

安全を確保する避難場所を確認する

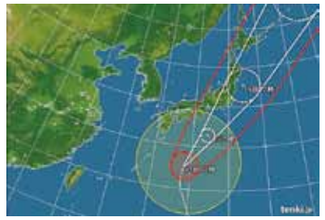
（写真提供：山本博司）

災害の種類によって，一時的に安全が確保できる場所がある。

また，過去の災害を知らせるものには，過去の災害に由来する地名や，災害についての言い伝えなどもあります。

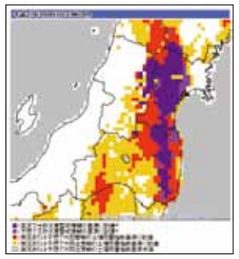
確かめよう 災害発生の危険を知らせる情報の把握

災害発生の危険を知らせる情報には，台風情報のように数日前からわかるものや緊急地震速報のように数秒前にわかるものなどがあります。台風や災害発生の危険などを提供している気象庁の情報では，どのような方法で災害発生の危険を伝えているか確認してみましょう。



Web サイト，テレビなどでの台風情報

（写真提供：日本気象協会）



気象庁 Web サイトの土砂災害発生の危険度を表示する Web ページ

（写真提供：気象庁）

台風接近の情報は，数日前からわかり，事前の対策をとる時間があるから，早めに情報をつかむことが大切だね。

知っておこう 防災気象情報と避難情報

気象庁は災害の防止・軽減のため，特別警報・警報・注意報や気象情報などの防災気象情報を発表しています。特に「特別警報」が発表されたときは，ただちに命を守る行動をとらなければならないほどの事態を示しています。

これらの防災気象情報や，自治体（市町村）が段階的に注意・警戒を呼び掛ける避難情報の発令がどのようなタイミングで行われるのかについて知り，早めの避難行動をとりましょう。

例：大雨で土砂災害や洪水による災害への警戒の必要がある場合

予想される状況	気象庁が発表する防災気象情報	自治体が発令する避難情報	私たちがとるべき行動
約１日程度前，大雨の可能性が高くなる	大雨に関する気象情報		気象情報・空の変化に注意
⇩ 半日～数時間前 大雨が降り始まる	**大雨注意報** 災害が起こる恐れがある場合に発表		最新の情報に注意して，災害に備えた早めの準備を 雨(浸水)や風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動
⇩ 強さ増す 数時間前～２時間程度前	**大雨警報(土砂災害，浸水害)** 重大な災害が起こる恐れがある場合に発表	**避難準備情報** ➡避難行動に時間がかかる人は避難開始	
⇩ 大雨が一層激しくなる	**土砂災害警戒情報** 土砂災害の危険度が非常に高まったときに発表 **○○川氾濫危険情報** 氾濫危険水位に到達したときに発表	**避難勧告** ➡通常の避難ができる人は避難開始 **避難指示** ➡まだ避難していない人は，すぐに避難	自治体が発令する避難情報に注意し，必要に応じ速やかに避難
⇩ 広い範囲で数十年に一度の大雨	**大雨特別警報(土砂災害・浸水害)** 重大な災害が起こる恐れが著しく大きい場合に発表	特別警報の発表や避難勧告が発令済みであることを周知	**ただちに命を守る行動をとる** 避難場所へ避難するか，外出することが危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる

（参考：気象庁「気象業務はいま」〔平成 27 年 6 月発行〕資料を加工して作成）

※避難情報が発令されるタイミングは，自治体によって異なり，上記は一般例です。

※気象情報は，気象現象の経過や予想，防災上の注意点を解説するために発表しているものです。

※大雨による河川の増水や氾濫時の避難行動の参考になるよう，気象庁と河川管理者は「氾濫注意情報」から「氾濫警戒情報」「氾濫危険情報」「氾濫発生情報」と段階的に発表しています。

防災知識　記録的短時間大雨情報

数年に一度しか発生しないような猛烈な短時間の大雨を観測（地上の雨量計による観測）又は，解析（気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析）をしたりした場合に気象庁が発表します。

2014（平成 26）年 8 月，広島市で土砂災害により 74 名が死亡した豪雨では，8 月 19 ～ 20 日にかけて広島市の狭い範囲に激しい雨が集中し，「記録的短時間大雨情報」が発表されました。

（写真提供：時事通信）

この大雨を降らせた要因として，積乱雲群が複数連なった線状降水帯が同じ場所で数時間維持されていたことがあげられており，2015（平成 27）年 9 月に宮城（みやぎ）県に大きな被害をもたらした大雨も同じような線状降水帯の影響とされています。